

## 環境調査結果のお知らせ

平成22年5月7日  
中央漁業指導所・水産試験場

平成22年5月7日午後3時半から、野見湾の調査をしましたので結果をお知らせします。

## 概況

水温は20～21℃、塩分は33前後、溶存酸素は7～10mg/lでほぼ均質でした。プランクトンは湾奥から馬の背付近にかけてメソディニウム・ルブルムが数千cells/ml増殖していましたが、本種による魚類被害の報告例はありません。その他出現していたプランクトンも魚類に対して基本的に無害の種類でした。

## 水温と塩分(表1・2)

湾内の水温は19.6～21.7℃で、前回調査(平成22年4月30日)と比較して1.0～3.1℃上昇していました。塩分は32.4～33.9で、表層及び底層で上昇していました。

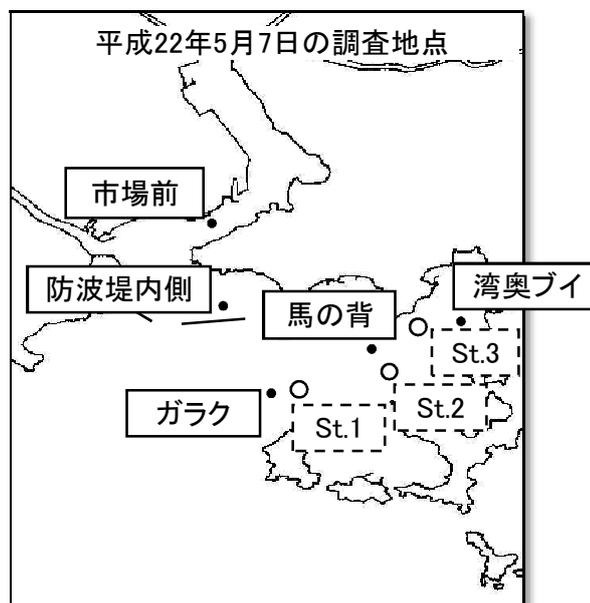
## 溶存酸素(表3)

湾内の溶存酸素濃度は、6.7～12.1mg/lで、養殖管理上問題となる低濃度(3mg/l)の測点はありませんでした。また、前回調査と比較して1.0～3.2mg/l上昇しており、養殖魚にとって適度な状態でした。

## プランクトン(表4)

海面の着色の原因はメソディニウム・ルブルムで、60～2,090cell/ml確認されました。その他にプロロセントラム・マイカンスが50～70cells/ml、ヘテロシグマ・アカシオが10～210cells/l観察されました。

今回赤潮を引き起こしたプランクトンは魚類に対して無害の種でしたが、湾内はこれからプランクトンの増殖期に入ります。海の状態や養殖魚の異常を感じた時は、よく洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。



平成22年5月7日

表1 水温(°C)

調査地点	St.1	St.2	St.3	平均	前回調査(H22.4.30)	
	ガラク～馬の背	馬の背付近	湾奥ブイ～馬の背		湾内平均	前回との差 今回－前回
0m	20.9	20.9	21.7	<b>21.2</b>	18.1	3.1
2m	20.7	20.7	20.9	<b>20.8</b>	18.8	2.0
5m	20.3	20.5	20.8	<b>20.5</b>	18.7	1.8
10m	19.6	19.6	19.6	<b>19.6</b>	18.6	1.0

表2 塩分

調査地点	St.1	St.2	St.3	平均	前回調査(H22.4.30)	
	ガラク～馬の背	馬の背付近	湾奥ブイ～馬の背		湾内平均	前回との差 今回－前回
0m	32.5	32.4	32.5	<b>32.5</b>	30.8	1.7
2m	32.7	32.8	32.8	<b>32.8</b>	30.8	2.0
5m	33.5	33.3	33.4	<b>33.4</b>	34.0	▲ 0.6
10m	33.9	33.9	33.8	<b>33.9</b>	30.6	3.3

表3 酸素濃度(mg/l)

調査地点	St.1	St.2	St.3	平均	前回調査(H22.4.30)	
	ガラク～馬の背	馬の背付近	湾奥ブイ～馬の背		湾内平均	前回との差 今回－前回
0m	8.2	8.6	12.1	<b>9.7</b>	6.4	3.2
2m	7.8	8.0	8.2	<b>8.0</b>	5.9	2.1
5m	6.7	6.8	7.1	<b>6.9</b>	5.9	1.0
10m	7.1	7.1	6.8	<b>7.0</b>	6.0	1.0

表4 プランクトン

			メソディニウム・ルブラム	プロロセントラム・マイカンス	ヘテロシグマ・アカシオ
St.1	ガラク～馬の背	0m	60	50	10
St.2	馬の背付近	0m	2,090	70	60
St.3	湾奥ブイ～馬の背	0m	1,860	70	210